

よくある日常のよくあるお話

83/hachimitsu

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

息抜き（本編を描写できない苦しみを糧に）で書きました。

台詞だけで構成されています。

読みにくいです。いつか清書出来るといいな。

目次

の？そっかー、ごめんねー。苦手ならしやうがないねー。別のゲーム選ぼっかー。」

「にに、苦手なわけねえだろ！」

「そう。じゃあOしよっか。」

「畜生……。」

「ひいやあ!!？」

「ちよ、OIEちゃん。ちよっとした脅かし要素の度に叫ばないでよ……。」

「だ、だつて……ひいやあ!!？」

「ちよ、抱きつかないでよ。やりづらいでしょ。(よっしや役得ううううううう！)」

「うあ、ごめ、きやあ!!」

「はあ……やりづらい。(これ選んで正解だったなあ)」

「な、なあ、そろそろ止めないか？」

「うん……あーそうだね。時間も時間だし。遅れてもあれだしね。じゃあ私も帰ろっかな。」

「お、おう！(やっと終わった。)」

「じゃあまた二時間後。」

「そうだな。何時もの場所で二時間後。」

「ふう……やっと帰った……。OはIA姉えに閉まっとく様に言っとこ……。」

「あれ？私の特効服どこやったつけ？」

「押し入れのなかは？」

「きやつ！いい、IA姉え。お、驚かさないでよ……。というかいつ帰ってきたの？」

「さつきよ。」

「そ。私今から出るから。」

「私のおゆはんは？」

「作つてあるから食べてて良いよ。」

「私一人で？」

「あー………んー……。ゆかりさんとかささらさんとかセイカさんとか呼んで良いから。」

「んー、OIEちゃんと食べたいなー。」

「また今度ね。つーかとつとと妹離れしてくれよ。」

「私お料理できないもん。」

「じゃあ練習するんだな。いつてくる。」

「いつてらっしゃーい。」